

●●● 病院ニュース ●●●

# しろうさぎ



島根大学  
SHIMANE UNIVERSITY

2012.7.1  
第29号



写真「小児科外来」

## 副院長就任挨拶

腫瘍・血液内科

内科外来紹介

皮膚科外来移転完了！

泌尿器科外来が引っ越しました！

検査部細菌検査室：新しい設備の紹介

- 目次 -

副病院長就任挨拶	1P
腫瘍・血液内科	2P
内科外来紹介	2P～3P
皮膚科外来移転完了！	3P～4P
「泌尿器科外来が引っ越しました！」	4P～5P
検査部細菌検査室：新しい設備の紹介	5P
リニューアルされた血液浄化治療部のご紹介	6P
病院改修に伴う外来化学療法室の本移転	6P～7P
C病棟9階	7P

就任挨拶	8P～9P
「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム4大学合同FDを開催します」	9P
就任挨拶	10P
漢方薬はこころを癒す！！	10P
認知症疾患医療センターについて-iPadを用いた認知症スクリーニングの試み-	11P
「本院の歯科口腔外科での口腔がん検査システムの現状」	12P
消化器内科では胃食道逆流性(GERD)の頻度調査をおこなっています	12P
~くち・あご・かおのケガ・骨折~と~内視鏡を使った最新低侵襲手術~	13P
平成24年度 病院医学教育研究助成配分一覧	14P～16P
「事前要望書」について記者発表を行いました	17P

病院情報システムの更新について	17P
病院組織変更(機構)について	18P
感染防止対策地域連携カンファレンスを開催しました	19P
平成24年度第1・2回環境マネジメントシステム(EMS)研修会を実施	19P～20P
「しまねの看護師就職キャンペーン合同セミナー」に参加して	20P
ナース輝いて！ 新人看護師からのメッセージ	21P
炊き出し訓練の実施について	21P～22P
平成24年度医学部防災訓練を実施しました	22P～23P
災害派遣医療チーム(DMAT)隊員を募集しています	23P

オケージョナル・オーケストラDNAフィルハーモニック結成のご案内	24P
日本医療福祉設備学会優秀発表賞を受賞	24P
学生、大学院生、医員、助教等の教育表彰	25P
難病の子どもたちを励ます花火を打ち上げました	25P
床頭台等清掃終了後の表示を開始しました	26P
ユニフォームコレクション	26P～29P
ボランティア活動について	29P
病院運営委員会の報告	30P～31P
研修会・講演会・学会等のお知らせ	31P

理念  
地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標 患者さんの視点に立った医療の提供  
安全・安心で満足度の高い医療の実践  
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成  
地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開  
地域社会に還元できる臨床研究の推進



## 副病院長就任挨拶

本年4月より改革担当の副病院長を勤めております。

現在、島根大学附属病院は改革ではなく改築の真最中で、使い勝手も良くはなく使用可能な病床数も少なくなっております。このため各方面にご迷惑をかけておりますが、改築終了時のリノベートされた施設での医療を期待していただければと思います。

日本の医療は大きく変わりつつあります。1人の患者さんに対して全ての医療を1つの施設で行う時代は終わり、それぞれの医療施設が分担して最も得意な医療を行い、多数の施設が連携して1人の患者さんの診療を行う時代になりました。大切なキーワードは「特化」と「連携」だと考えられます。大学病院は一般的な外来診療は縮小する方向へ、二次三次救急医療は強化する方向へ、また高度医療、医療開発を推進する方向へと大きく舵を切ることが求められています。大学病院の進むべき道は、すでに誰かが切り開いた道、確立された医療ではなく、道なき道、unmet needsと呼ばれる期待はあるが誰も到達できていない先端的な医療の開発、確立であろうと考えられます。島根大学附属病院

本年4月より医療安全担当の副病院長を拝命いたしました山口修平です。本附属病院の使命は「地域医療と先進医療の実践」であります。その根幹は患者に安全・安心の医療を提供することであるの言うまでもありません。1999年の大学病院における患者取り違え事件以来、医療事故報道は後を絶たず、国民の医療への意識も向上しています。医学・医療の進歩に伴い、必要とされる技術・知識の量と質が高度・複雑化し、それに関わる医療スタッフの数は増大し、さらに労働時間もむしろ増加しています。この事は医療安全の視点からみれば、事故リスク増大の素地となっております。また患者からの医療に対する要求・期待の水準は上昇し、現場でのトラブルも増えています。

ハインリッヒの法則では、1つの事故死の背景には同じ原因の軽度の事故が29件隠れており、さらに無傷害の事故が300件潜んでいるとされます。したがって無傷害事故の段階で、いかに医療環境や医療システムの改善を図るかが重要となってきます。本院では、平成14年に設置した医療安全管理室を中心に医療安全対策の業務を行っています。その業務の中心は、医療事故に関する報告書の収集、分析、医療安全関連のデータの管理公表、事故発生時の調査、指導などです。また医療安全のための職員の安全研修の企画・運営や院内の巡視も行っています。これまで本院も医療事故とは決して無縁ではなく、毎月150件前後のインシデント、アクシデントの報告があり、事故防止との戦いが続いて

### 改革担当副病院長 木下 芳一

も世界標準となる医療知識・技術を開発していくことが必要だろうと考えております。

改革担当副病院長の仕事は、島根大学附属病院でこのような研究開発、活動を行いやすい環境を整備することだろうと考えています。



### 医療安全担当副病院長 山口 修平

います。

こういった状況の中でまず大切なことは、患者と安全意識を共有すること、そしてお互いの信頼感を醸成することではないかと考えます。患者との信頼関係は非常に脆いものであるとの認識を持ちながら、全ての医療従事者が患者の安全を最優先にした基本的な行動規範がとれるよう、病院全体でその実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。そのために、患者、医療スタッフからの様々なご指摘をもとに、安全な医療を提供するシステムの構築に努めたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 腫瘍・血液内科

腫瘍センターは出雲市からの寄付講座を母体に、島根県の寄付などを総合して平成20年2月1日に発足しました。研究部門として腫瘍臨床研究部門、診療部門として腫瘍科があり、さらに島根大学医学部附属病院が都道府県がん診療拠点病院の業務を果たすべく、がん登録部門とがん相談部門を有しています。

このたび、腫瘍科と血液内科が統合され腫瘍センター内に新たな診療科として腫瘍・血液内科ができました。この統合は診療科としてのものであり、各スタッフは以前の講座に所属したままでありますが、総勢13名の医師が在籍する診療科が誕生いたしました。スタッフをご紹介します(表1、写真)。

今回は、腫瘍センター全体の紹介ではなく腫瘍・血液内科に限ってご紹介をさせていただきます。

診療範囲は腫瘍センターが分担をしておりました各種がんの治療と血液内科がカバーしてきました血液疾患の診断、治療です。表2に外来担当医を示します。外来棟2階の内科外来で主に血液内科の診療を、3階で腫瘍内科の外来を行います。また腫瘍科外来に隣接します外来化学療法室で、各診療科の先生方より依頼されました外来化学治療を実施しております。入院診療は旧病棟に4床ありますが、C病棟8階の腫瘍センターで主に行っております。この病棟には一般病床18床とクラス1万の無菌管理病床が16床、クラス100の高度無菌管理病床が3床あります。この無菌管理病床は病床だけではなく、廊下や食堂などを含めました全体を無菌的にしています。このすばらしい病棟で、主に抗がん薬治療や造血幹細胞移植など高度な医療を安全に提供すべく、スタッフ一丸となって頑張っております。毎朝、昼、夕方に職種を超えたミーティングを毎日行っております。特に17時15分からのミーティングは、診療科の先生方もご参加いただき、翌日の抗がん薬治療を行う患者さんの情報を共有しています。抗がん薬治療にご興味がある方の参加は大歓迎です。

腫瘍センター、1内科、3内科に籍をおく医師が集まってできた診療科ですが、よりよいがん診療、血液

### 腫瘍・血液内科 鈴宮 淳司

診療を提供していくという共通の目的をもった医師の集まりですので、研究そして遊びも一緒に楽しく各部署のさまざまな職種のスタッフのみなさんとやっております。今後ともさらに良い医療が提供できますように、スタッフ一同頑張っておりますので、ご指導の程よろしく申し上げます。

表1 スタッフ一覧

	氏名	専門医
診療科長(教授)	鈴宮淳司	がん薬物療法、血液
副診療科長・外来医長(講師)	田中順子	血液
医局長(助教)	高橋 勉	がん薬物療法、血液
副医局長(学内講師)	森山一郎	がん薬物療法、消化器
病棟医長(助教)	三宅隆明	血液
副病棟医長(助教)	井上政弥	がん薬物療法、血液
(助教)	川上耕史	がん薬物療法
(医員)	大西千恵	血液
	城 有美	救急
	池尻文良	
	熊野御堂 慧	
	足立康二	
	岡田隆宏	

表2 外来診療表

	月	火	水	木	金
土曜(外来 棟2階、内 科外来)	鈴宮	井上	田中	高橋	三宅
日曜(外来 棟3階、腫 瘍科外来)	井上	川上	鈴宮	田中 (其者の み)	高橋



## 内科外来紹介

新しい内科外来は外来2階北側中央に位置し、受付・診察室・処置室がライトコートを囲んで配置されています。診察室は16室。感染症疑いの患者でも対応できるよう陰圧空調が設備された部屋も設けられています。待合室は2ヶ所あり、ミントグリーンとオレンジの椅子で区別しています。高齢者が多いため、わかりや

### 内科外来 山田和子

すい文字と色で表現され好評です。以前と比べると、診察室は窓がなく狭く感じますが、温度・湿度・採光に留意し患者だけでなく、医療者にも優しい職場環境を目指しています。

内科外来は9診療科、60名の医師が対応しています。看護師、クラークとコミュニケーションをとり、患者

さんが安心して医療・看護が受けられるよう日々奮闘  
しています。看護専門外来と連携しながら、様々な疾  
患の療養相談に対応できるよう、準備しています。患

者さんが安心して入院や自宅療養出来るよう、病棟・  
地域と連携をとっています。



### 皮膚科外来移転完了！

皮膚科外来が移転完了し、5月28日（月）から2階に  
リニューアルオープンしました。全体の診療スペース  
は移転前より縮小しましたが、無駄なスペースを排し  
た設計により機能的に便利になりました。患者さんの  
診察室は4部屋確保し、同時に4名の患者が診察可能と  
なりましたので、診察の待ち時間の短縮になります。  
これにより、処置が必要な患者さんの待ち時間も短縮

皮膚科 森田 栄伸

されます。また、症状の写真記録に必要な写真室を別  
に用意いたしました。さらに光線治療室とレーザー  
治療室も機能的に改善されています。レーザー照射装  
置もCO2レーザー、ダイレーザー、脱毛レーザー、Qス  
イッチレーザーを保有していますので、徐々に稼働実  
績を挙げてゆくことと思います。



診察室



待合室



受付



光線治療室



レーザー治療室



処置室

## 「泌尿器科外来が引っ越しました！」

この度泌尿器科外来は、医局のある臨床研究棟から最も近い通い慣れた場所から、関連部署である血液浄化治療部の隣へ引っ越しました。2階外来のシンボルカラーである緑色に浮かび上がる「泌尿器科受付」の白抜き文字と、その下でテキパキと働く看護師さんやクラークさんが目印で、もう片方の隣には内科外来があります。ご存じのように、泌尿器科外来患者の多くはお年寄りで、内科疾患もかかえ両科を受診される方が多く、非常に便利になりました。

受付から奥へ向かって広くなった4つの診察室が並び、廊下を挟んだ向かいには、処置室、“トイレ”、エコー検査室、尿流動態検査室があります。旧外来に処置室がなかったため、各診察室で処置をすることが多く不便でしたが、広い処置用ベッドで患者さんにとって楽な体勢で対応できるようになりました。“トイレ”を強調しているのは何故でしょう？このトイレはそんじょそこらのトイレとはわけが違います。一見普通のトイレに見えて、実は尿流量測定機能を兼ね備えている優れものです。泌尿器科では、内科での聴診並みに？排尿状態を評価しますが、これまでの測定装置はいかにも検査機器っぽく検査室内に設置されていたので、緊張して自然な排尿ができない患者さんも多くいました。この新兵器の導入で患者さんにとって優しい検査が可能となるのではないかと期待しています。尿流動態検査室には新しい検診台を配備しました。この検診台は体の不自由な方やお年寄りに気配り

泌尿器科 本田 聡 椎名浩昭

されたデザインで、世界で唯一立位が取れる仕組みとなっており、立位での排尿機能評価が可能となりました。廊下の突き当たり右手の部屋には、体外衝撃波結石破碎装置を配備し、これまで通り外来との動線を維持し治療に当たっています。

引っ越してさらに患者さんに優しい造りとなった泌尿器科外来で、泌尿器科スタッフ一同、より一層頑張って診療に取り組んでいく所存ですので、これからもよろしくお願ひ申し上げます。



“トイレ”



受付



検診台

## 検査部細菌検査室:新しい設備の紹介

検査部 森山英彦

検査部・細菌検査室の新しい設備が整いましたので、概要を紹介します。

### 1. 検査機器の整備・・・迅速化、処理能力の拡大

検査部は平成23年度予算で検査システムの更新を行いました。これに伴い、細菌検査室には質量分析による細菌同定装置が導入され、迅速な同定検査が可能となりました。敗血症における起炎菌の迅速同定に威力を発揮することと思います。また、検体数の増加により処理能力に限界のあった血液培養装置、抗酸菌培養装置を更新し、両検査の処理能力の向上を図りました。

### 2. 病院再開発による検査環境の整備・・・スタッフの安全確保と院内感染の防止

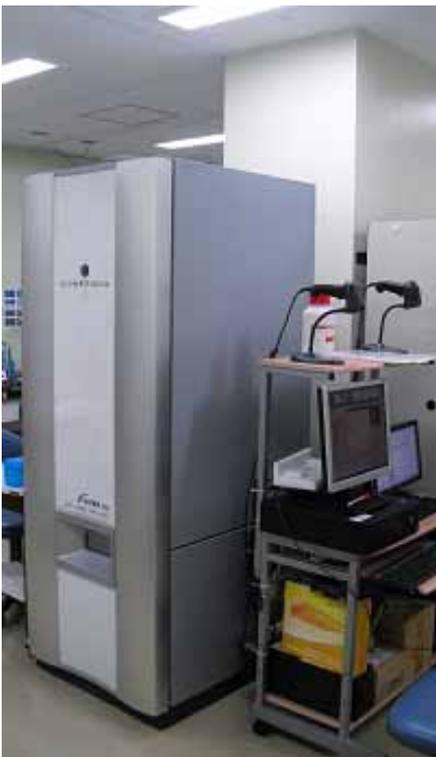
病院再開発により検査部も生まれ変わりつつありま

す。細菌検査室は新しい設備が完成し、前室を有する陰圧室となりました。また、結核菌をみつかることからP3対応の検査室を装備しています。安全キャビネットも新調され、全て室外排気となりました。このことにより、スタッフの安全を確保した検査環境が整いました。

### 3. 検査データを支える情報システムの充実・・・迅速化、付加価値のあるデータ、院内感染対策支援

5年ごとの病院情報システムのリプレイスに伴い、細菌検査システムと感染支援システムも更新されました。院内で感染拡大が疑われた場合、特定の患者との接触者を簡単迅速に検索できることから、より早い対応が可能となりました。また、患者単位で細菌検出状況・抗菌薬投与状況・熱型表・炎症マーカーの推移が一画面の感染チャートで確認でき、毎週開催される感染対策室ミーティングや病棟ラウンドで重要な働きを果たしています。

細菌検査室はICTの一員として、耐性菌サーベイランス、病棟ラウンド、内視鏡ファイバーや透析用水の監視培養、環境培養などを行っています。今後も患者様の感染症治療や感染対策に有用なデータ提示・活動を行いますので、各部門からのご指導とご協力をよろしくお願い致します。



細菌同定用質量分析装置



安全キャビネット内での培養検査

## リニューアルされた血液浄化治療部のご紹介

この度、病院再開発に伴い血液浄化治療部がリニューアルしました。1987年に開設された従来の血液浄化治療部ではコンソール（血液透析装置）5台で血液透析を中心に血液浄化治療を行ってきました。今回のリニューアルでは、透析用ベッドおよびコンソールを10台に増加し、また新たに個室ベッドを配備しました。これらが従来の血液浄化治療部との大きな違いです。

現在、本邦における透析患者数は30万人にのぼり、当院でも今後透析患者の増加が予想されますが、今回のリニューアルに伴いより多くの透析患者さんに最先端で安全な血液浄化治療を提供し、島根県の血液浄化治療のセンター的役割を果たすことが可能となります。

血液浄化治療部に個室ベッドを2床設置したことで、



リニューアルされた透析室

泌尿器科 三井 要造、椎名 浩昭

腹膜透析患者さんにもより充実した診療を提供することができます。また、感染患者が発生した際に感染専用の個室ベッドを用いることで、感染の拡大をより確実に防止することが期待されます。いずれの個室ベッドも開放窓を通して外部から観察可能で、安全面にも配慮した構造になっています。

血液浄化治療部では泌尿器科および腎臓内科の医師に加え、常勤看護師1名、応援看護師2名、臨床工学技士1名で血液浄化治療を行っております。腎臓代替療法としての血液透析治療だけではなく、血漿交換や免疫吸着療法など全身性疾患に対する血液浄化治療も私たちの業務と考えています。関連各部署の医療スタッフと連携しながらより安全で充実した血液浄化治療を提供したいと考えておりますので、何卒よろしく願いいたします。



感染者用個室

## 病院改修に伴う外来化学療法室の本移転

近年のがん化学療法は、個別の疾患に対する標準的の化学療法の確立や、副作用軽減の技術的進歩などを背景に、外来で抗がん薬の点滴静注治療を実施して入院期間を短縮し、在宅期間を延ばすことでがん患者さんの生活の質向上をはかるという理念が定着しています。そのため本院では、化学療法を受けられる外来がん患者さんの治療環境を整備し、医師、薬剤師、看護師、栄養士、がん相談員等の連携によって、質が高く、安全でかつ安楽な外来がん化学療法を提供することを目的として2003年8月に外来化学療法室を設置し、運用しております。設置当初6床でスタートしましたが、化学療法を受けられる外来がん患者さんの増加に伴い2010年5月からは9床に増床いたしました。この度の附属病院の改修に伴い、2012年5月29日から外来・中

腫瘍センター 森山 一郎

央診療棟の3階に移転し、開放感あふれる外来化学療法室になっており、さらに病床数も15床に増床いたしました。

これまでは旧薬剤部で調剤した抗がん薬を外来化学療法室まで運んでいましたが、今回の移転に伴い薬剤調製室が外来化学療法室に隣接して設置され、より安全でスムーズな治療が行えるようになりました。また患者さんが快適に治療を受けていただけるように、ベッド、リクライニングシート共に電動としており、心地よい音楽を流したり、病床別に1台ずつTVを配置しております。隣接するトイレも点滴台と一緒にゆったりと使用できる広さがあり、洗浄機能も整っております。また、病気や化学療法等に関して出来るだけ分かり易く解説したパンフレット、資料等もご要請

に応じて提供できるようにもしています。

今回の移転に伴いこれまで以上に快適な治療が提供できる場となりましたが、今後とも患者さんの声に耳



を傾けより良い治療が提供できるよう頑張りたいと思います。



## C病棟9階

昨年6月に新病棟が開院し、C病棟9階は全室個室で、内12床は女性専用病棟として開設しました。

A特室1床と23床がB特室です。有料ということで、当初は空室が多く心配しましたが、現在は満床の時期もあり、多くの方に利用して頂いています。9階からの眺めはすばらしく、個室病棟側からは北山、出雲ドーム、出雲市が一望でき、女性専用病棟側からは神門川や田園風景が望めます。

静かな環境の中、ソファーベットもあり家族が泊まれる事も多く、有意義な時間を過ごして頂いていると思います。一度利用された方は、次も当病棟を希望して下さい。

多くの科の方が来られますが、看護の心は全てに通ずるものと思っています。心地良く過ごして頂くよう、看護師は相手の気持ちを考えた接遇を心がけてお

看護師 坂田 述子

り、感謝のお手紙を頂く事もあり、とても励みになっています。



患者さんの声： C病棟9階女性病棟に入院して

5月12日は看護の日です♡!!



平成23年11月の終わりから12月の10日頃までの入院生活でしたが、先生をはじめ看護師さん、病室担当の生徒さんには、とてもよくして頂き感謝しております。

寒い時でしたが、病棟は暖かくとてもきれいで、テレビ、冷蔵庫が使いほうだい、洗面所、トイレ、シャワー室も完備され、又、病棟には、誰でも簡単に出入りする事が出来なくなっており色々な面で、気兼ねなくゆっくりと養生することが出来ました事、大変喜んでおります。

ありがとうございました。

## 就任挨拶

はじめまして。本年4月1日付けで放射線治療科の科長に就任しました猪俣泰典（いのまた たいすけ）です。約30年間、高知大学や大阪医科大学などで放射線治療に従事してまいりました。1990年代までは乳癌（乳房温存療法）、2000年代以降は前立腺癌の放射線治療に特に力を入れております。

放射線治療は侵襲が小さく、根治的、術前・術中・術後、症状の緩和などさまざまな目的に応じて行うことができます。放射線治療は通常の外部照射に加えて腔内照射・組織内照射（密封小線源治療）、定位放射線照射、強度変調放射線治療（IMRT）など多くの方法がありきめ細かな治療が出来ます。また高精度化が進んでおり厳密な正確さが要求されます。現在の放射線治療では治療後に患者さんのQOLを損なうことなく癌を治すことがごく普通に出来るようになりました。

欧米では癌患者の3人に2人は放射線治療を受けています。しかし、本邦では4人に1人とまだまだ少ないのが現状です。理由の一つとして全医師数に対する放射線腫瘍医の割合が本邦では欧米と比較して約9-10分の1と少ないことが挙げられます。これは島根県におきましても例外ではありません。

従来、放射線治療学は診断学、核医学と同様に放射線科の1部門として位置づけられていました。専門分化が進むにつれて現在はそれぞれの部門が独立した科と

### 放射線治療科 猪俣 泰典

して扱われるようになりつつあります。しかし、治療学、診断学、核医学はそれぞれ密接に関係しており、相互の研修等を通じて幅広い放射線医学の素養を身につけることが優れた治療医や診断医の育成には欠かせないと考えています。

放射線治療の対象疾患や対象領域はほぼ全科と関係しており、皆様方との密接な連携と協調が必要不可欠です。高齢化社会が進行している現代において、放射線治療が癌の治療に果たす役割はますます大きくなっています。少ない人数での出発ではありますが、島根大学放射線治療科の発展に尽力し、微力ながら地域医療に貢献できることを願っています。宜しくお願ひ申し上げます。



## 就任挨拶

島根大学医学部附属病院からは西へ約35Km、大田市立病院に設けられた大田総合医療センターにこの4月より赴任しました。総合医療学講座内科系教授を拝命いたしました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

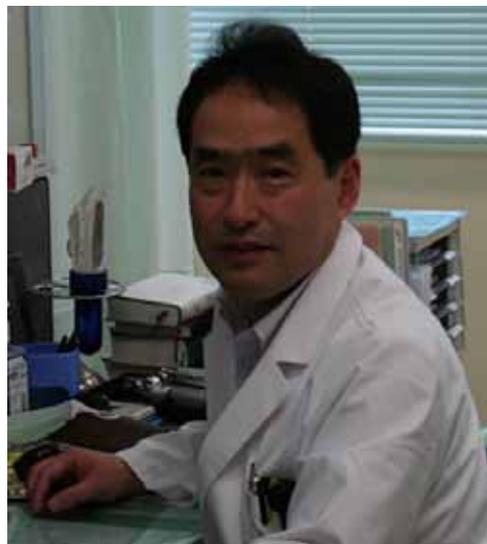
ご存知の方も多いと思いますが、島根県西部の病院のほとんどで慢性的な医師不足の状態です。全国でもあちらこちらで、従来中小規模の病院が主として担ってきた、地域の中核的病院としての機能や、身近な二次救急機能が、医療従事者の不足のために細ってきています。それは、地方ばかりではなく、東京などの都会地においてもしかりのようです。高齢者や慢性複合病態を抱える患者への対応は、高度に専門化した大規模病院や単一病態への対応を規格化したシステムばかりでは難しいという実感です。

総合医という言葉は、使う人によって子細の異なるまだ曖昧な言葉です。広大な国土を有する米国や豪州の「総合医」と、日本で求められている総合医の要件は幾らか異なっているでしょう。しかし、最初から枠を区切るようなことは努めてしない総合的な診療が、地域の中核病院、二次救急病院は言うに及ばず全国の

### 総合医療学講座 山形 真吾

医療現場で求められているのは事実ではないでしょうか。

震災の時に多くの医師が突き動かされたように、病に困っている人がいれば寄って大丈夫かと声をかける。そんな医療の原点に近い構えで、臨床経験を積みたいと考えておられる有志を求めています。



## 就任挨拶

このたび、本院では新たに栄養サポートセンター（NSC）が発足し、そのセンター長を拝命致しました臨床検査医学の矢野です。この場をお借りして、NSCの紹介と基本方針について述べさせていただきます。

主な業務内容は、旧臨床栄養部が中心に行ってきた栄養サポートチーム（NST）活動です。主治医から依頼のあった患者さんの最適な栄養療法をめざして、栄養状態を評価し、栄養計画や改善策を提案します。そのために、看護部、検査部、薬剤部、リハビリテーション部、栄養治療室、地域医療連携センターなどから多職種が集い、カンファレンス（毎水曜日午後3時から・C棟6階カンファレンスルーム）と回診を行っています。副センター長の板倉先生（乳腺内分泌外科）、NST専任医師である石村先生（消化器内科）、西先生（消化器外科）をはじめ、各部署のNST専任の方々が活躍しています。

NST活動は患者さん・ご家族および病院に利益をもたらします。早期にNST介入することは、感染などの合併症予防、死亡率低下、入院期間短縮につながる事が明らかになっています。ゆえに、みなさまには是非ともNSCについて知っていただき、NSTを利活用していただきたいと思います。NSCでは、NSTをより利用しやすくするため現在手書きの依頼書・報告書を電子化すること、活動内容を診療録に反映しNST加算を算定するこ

栄養サポートセンター 矢野 彰三

などを目指し、「できるだけシンプルで分かりやすく」をモットーに、NSTシステムワーキングで取り組んでいるところです。

NSCはこうしたチーム医療活動を行う一方、栄養改善の重要性や具体的方策について、院内の教育・啓蒙・啓発に努めたいと考えています。これまで行ってきたNST宿舎に加え、今後は学生でも参加できる院内の勉強会や症例検討会を企画してゆきたいと思います。

これからのNSCにご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



## 「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム4大学合同FDを開催します」

文部科学省「大学病院人材養成機能強化事業」（大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成）につきましましては、各講座ならびに診療科の先生方、皆様方のご理解とご支援を賜りまことにありがとうございます。紙面をお借りし、あらためまして御礼申し上げます。

さて、来る9月8日（土）、上記事業に伴う「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム」4大学（島根大学、神戸大学、鳥取大学、兵庫医科大学）合同FDが、出雲大社そばの竹野屋旅館で開催されます。

島根大学医学部附属病院は、これまで4大学プログラムに加え、東京医科歯科大学担当の「都会と地方の協調連携による高度医療人養成プログラム」（秋田大学を加えた3大学プログラム）において、各大学のコーディネータやキャリア形成支援部門の活動により、後期研修医師らの交流が大学連携により活発に行われ、数的にも質的にも高い評価を受けています。

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

本事業も最終年度を迎え、より一層の大学連携による交流を活発化させていく活動計画を立てています。開催予定のFDでは、基調講演に文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長・平野裕之氏をお迎えし、本プログラムの評価とともに今後の事業展開についてご講演を賜る予定です。また、本事業の成果として交流に参加した医師の報告をもとに問題点や課題を抽出し、「医師不足による大学病院機能の強化」と「地域医療の再生」をどのように方向づけるのかを検討します。

さいごになりましたが、本事業が今後も継続されますよう、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

また、高度医療人FDの問合せ先は、以下の通りです。

卒後臨床研修センター 内線2066

e-mail address: sotsugo@med.shimane-u.ac.jp

## 就任挨拶

本年4月から栄養治療室室長を務めさせて頂いています。

島根医大当時からすでに29年目、通勤時間7分の距離を通っています。第一内科文部教官（助手）職を務め、8年前に配置転換で事務部門栄養管理室室長となりました。その後診療科 栄養治療科、特殊診療施設臨床栄養部を得て現在の栄養治療室となりました。この間最もパワーを使ったのが平成17年のNST（栄養サポートチーム）の構築と稼働です。当時、全診療科と部門長にNSTメンバーの選出を頂くために面会をお願いしましたが、栄養士の存在認識は薄く時間を頂くことが難しい事もありました。多忙な先生方にお会いするためには回診日に部屋の前で待ち伏せするなど失礼もしましたが、NST介入患者は全診療科から依頼を受けるに至っています。そして、NSTはこれから新しく歩み出します。もう一つの成果は、がん栄養治療のために悩み続け、書き上げた「がん専任栄養士が患者さんの声を聞いてつくった73の食事レシピ」（医学書院）の出版であり、今後の当院栄養士のあるべき姿をまとめることが出来たように思います。

病院内を歩いているとスタッフ、患者さんまたは業者さんに1日に3回以上は「元気ね」と声を掛けて頂きます。元気そうなのは、回数は減りましたが早朝、深夜に大学のグラウンドを走り、ライフセーバー女性有資格

### 栄養治療室 川口 美喜子

者日本最年長という肩書きを持ち大好きな海、キララビーチにいるからでしょうか。食べることも大好きです。海外出張でのモットーは名所を走り抜け、心置きなくその国の食を満喫し、無理をしてワイナリーに寄ることです。冷凍冷蔵庫に魚介とワインとチーズと新鮮野菜を一杯詰めておくとホッとします。好きな言葉は「言霊」です。信じていることを口にしていればきっと結果はでる。でも、栄養治療室への皆さんの応援が一番大切だと思うこの頃です。今後もよろしくお願いいいたします。



## 漢方薬はこころを癒す！！

抑肝散は元来、「神経のたかぶり」に奏功するため、小児の夜泣きや神経症の際のイライラに投与されてきました。ごく近年、抑肝散は認知症患者さんの寝ぼけなどに奏功することが報告され、臨床現場において頻用されつつあります。私たちの教室では、この抑肝散を認知症だけでなく、統合失調症やCharles Bonnet症候群、抗精神病薬誘発性のジスキネジア、広汎性発達障害やアスペルガー障害、境界性人格障害、むずむず脚症候群などの患者さんに服薬いただき、良好な治療結果を得ております。また左記のように、統合失調症に関しては、全国多施設協同研究により、厚生労働省から約2億円の研究費の協力を得て、研究中であります。（写真は「夜なのにあさイチ」（NHK総合テレビ出演））

### 精神科神経科 堀口 淳

「治療抵抗性統合失調症に対する抑肝散の有用性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験」（平成22～24年度；研究代表者；堀口淳）



平成23年9月に認知症疾患医療センターが、島根県の委託を受け本附属病院内に発足しました。その目的は、県内のこれまでの医療供給体制を基盤にしながら、より専門的な立場から認知症に関する高度な医療や情報を提供する役割を担うことにあります。具体的には神経内科および精神科神経科の物忘れ外来に患者紹介を受け、脳血流量や脳の萎縮や梗塞、出血の有無などを脳画像検査で調べ鑑別診断を行います。次に治療方針を決定して、認知症サポート医やかかりつけ医と情報を共有しながら治療を行います。さらに進行期の行動心理症状に対する専門的対応も行います。またセンターのスタッフが、認知症患者の家族からの相談を受け、患者対応に関する適切な助言や行政サービスの活用方法の教示も行っています。開所以来5月末までに、診断症例数は80例、相談件数は214件であり、徐々に増加傾向にあります。またかかりつけ医や介護支援スタッフに対する研修を定期的に行っています。

アルツハイマー型認知症では近年新たな薬剤の使用

認知症疾患医療センター 山口 修平

が可能となり、進行の遅延効果が期待されています。また介護や生活設計の面からも認知症の早期診断が重要との認識が広がっています。そこで私たちは総務省や島根大学重点プロジェクトの補助によりiPad上で動作する早期認知症のスクリーニング用プログラムの開発を行ってきました(Cognitive Assessment for Dementia, iPad version: CADi)。使い方は、画面に表示される記憶力や空間認知能力などを調べる10の質問に対しタッチパネルに触ることで答えて行く方式です。従来からタッチパネル式の認知機能検査器機はありましたが、価格、携帯性、検査項目数、所要時間などに問題がありました。CADiによる今回の方法は、安価であり場所を選ばず一人平均5分程度で高齢者にも実施可能というメリットを有しています。現在、脳ドック、病院外来、住民検診、介護施設などで使用し、判定基準を作成しほぼ完成段階に近づいています。完成後はインターネットで配信し普及することも予定しています。



## 「本院の歯科口腔外科での口腔がん検査システムの現状」

歯科口腔外科 渡邊 正章

今後も継続することで口腔がんの早期発見に努めていきたいと思っております。口腔内に不安をお持ちの方、お気軽にかかりつけ歯科医院あるいは当科までご連絡下さい。

口腔がんの発症率は身体にできる全がんの1~3%ですが、わが国においてその罹患者数は増加傾向にあります。表1に、口腔がんの好発部位を示します。図1に実際の舌がんの1例をお示しますが、口腔がんの多くは痛みがないため、発見が遅れることがしばしばです。

そこで、われわれは口腔がんの早期発見を目的に、細胞診を用いたかかりつけ歯科医院と連携した口腔がん検査システムを構築するとともに、細胞診を用いた口腔がんの個別検診ならびに集団検診を行ってきました(図2)。これまで1,500名以上の検診を行い、実際に14名に口腔がんを発見することができました。

これらの口腔がん検査システムは現在も稼働中で、

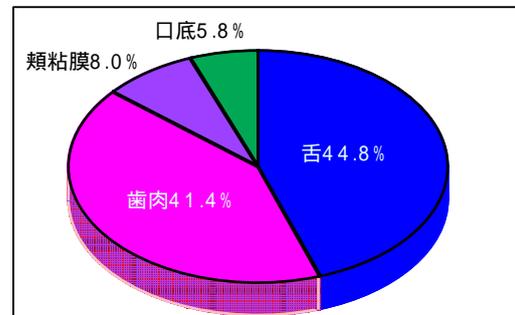


表1 口腔がんの好発部位



図1 舌がん



図2 口腔がん個別検診

## 消化器内科では胃食道逆流症(GERD)の頻度調査をおこなっています

消化器内科 森藤 吉哉

消化器内科では現在、胃食道逆流症(GERD)という「むねやけ」や「すっぱい酸が喉にまで上がる」症状をおこす疾患の頻度調査を、倫理委員会で承認をいただいたうえで行っていきます。胃食道逆流症は成人人口の10~20%にみられる非常に多い疾患で今も増加が続いています。ところが、この疾患がどれくらいの年齢から発症してくるのがわかっていません。そこで、本調査では大学・大学病院の職員の方の子供さんを含む家族全員の方に「むねやけ」症状についてのアンケートをお願いしたいと思っています。アンケートがまいりましたら、お手数ですがご協力いただければ幸いです。



## “くち・あご・かおのケガ・骨折”と“内視鏡を使った最新低侵襲手術”

歯・口腔（こうくう）・顎（あご）・顔（がんめん）は、日常の食事、そして会話や表情といった大切な機能を担う重要な器官です。しかし、転倒転落やスポーツ、車や自転車などによる交通事故、あるいは殴打による、くち・あご・かおの外傷（ケガ）と骨折は増加しています。

特に口腔・顔面は複雑な構造なので、治療の開始が少しでも遅れると、上手に噛めなくなったり、口が開かなくなったり、歯を抜くことになったり、あるいは持続的な痛みや大きな傷跡などの辛い後遺症が残ります。これらを回避するために最も重要なのは、可能な限りの早急な治療開始です。

そこで歯科口腔外科では、これら歯・顎・口腔・顔面の外傷に対する診療体制を強化し、本年度から外傷治療の専門医が常駐し、終日での患者様受け入れを開

歯科口腔外科 管野 貴浩

始しました。いつでも受傷後すぐに治療対応出来ますので、当科へ御連絡ください。

これにより、完全に抜け落ちてしまった歯でも、もう一度口の中に生着させたり、顎の骨折は早急な手術を行うことで、翌日から食事をとることも可能となりました。しかし、どうしても外傷により失った歯や顎には、今春から歯科インプラントを用いた高度な機能回復治療も保険導入され着目されています。

一方、治療については、体内で完全に分解吸収される吸収性の骨折手術用プレートの開発改良が進み注目されています。また、口や顎用の細い内視鏡の進歩により、顎関節の骨折や、眼窩（上顎から眼の周りの骨）骨折に対し、内視鏡を用いた低侵襲手術が可能となり、当科でも積極的に応用しています。



顎や顔の骨折用の吸収性プレート



内視鏡を用いた顎関節骨折の手術

## 平成24年度 病院医学教育研究助成配分一覧

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

病院医学教育研究助成が開始されてから8年になりました。病院活動においては、とかく医師が中心になることが多く、また、医師には他の医療従事者と比較して外部資金を獲得する機会があります。しかし、病院で提供される医療の質向上には病院職員全体の資質の向上とスキルアップが必要です。病院医学研究助成は、この趣旨に基づいて運営されています。本年4月井川幹夫病院長が就任されましたが、その理念は引き継

がれています。今年度は研究38件、研修71件の応募があり、審査の結果、下記のように決定されました。また、以前から研究（研修）成果の評価の導入が望まれていましたが、これに関する規定が整備され、23年度の優秀研究課題の成果報告会が予定されています。病院の質向上に向けた研究および研修が実施されるものと期待しています。

### 研究費部門

研究題名	配分額	研究組織の名称	研究実施責任者
	千円		
抗体検査データ管理システムの構築	700	感染対策室臨床検査管理	坂根 圭子
broad-range PCRと自動DNAシーケンサーを用いた細菌・真菌の同定検査の確立	156	感染対策室	桑山 英彦
院内のMRSA検出数および罹患率の時系列検査による院内伝播状況に関する検討（と経済学的検証）	80	病院医学研究センターおよび感染対策室病態医学研究センター	鈴木 妙子
抗菌薬使用量集計プログラムの新電子カルテシステムへの対応および検証拡張	510	抗菌薬適正使用チーム	西村 信弘
島根県下病院における医療安全および感染対策ネットワークの構築	126	医療安全管理委員会感染対策および病院医学教育センター	廣瀬 昌博
職員の臨床管理システム改善と感染室に関するデータベース化	1,200	医学部附属病院感染制御委員会	高木 直樹
皮膚・末梢血管外科領域における電子媒体を利用した診断・治療サポート	200	大日徳台医療研究センター皮膚・末梢血管外科部守倉	水本 一生
学生による地域交流を考える企画「福崎マラソン」への参加を通して	250	徳台医療学際基	石橋 豊
医学部上級学年における地域医療実習がもたらす卒業への影響づけに関わる研究	140	徳台医療学際基	山形 真百
大学病院を基盤としたノンフィクション・コントロール卒・教育推進プログラム～病院臨床ピデンスの創出～	1,200	老健医療教育学際基	熊倉 栄一
C-PAP患者交流会の開催	100	睡眠ガイド	田中 洋子
認知症医療の効率化と地域連携を目指す診療手順の普及	250	認知症医療センター	山口 修平
がんの個別化治療を指向したラボラトリーならびに遺伝子カルテ作成と高嶺医療への対応	450	呼吸器・臨床腫瘍学	藤野 家
外来迅速検査検査作業ノブへのバージョンアップ	900	検査室専門委員会・検査サービス課	桑田 宏
多項目自動血球分析装置（HPC）を用いた血液細胞形態（HPC）モードの検討	200	検査室	見玉 るみ
検査部における新規業務（遺伝子検査業務）に関わる体制の確立	27	検査室	宮田 親史
学童を対象とした検体検査で生じる回帰劣化低濃度の試みに関する研究	60	検査による小児の検査中体縮小率の検討	矢田 伸広
LAMP法におけるエルシニア感染症の迅速診断の確立	239	輸血部	竹谷 隆
大量出血におけるクオプレジタールの止血効果の検討	75	輸血部専門委員会	竹谷 隆
当日入院・日帰り手術を受ける患者に対する、術前の手術室見学ツアー導入とその効果	75	小児がんセンター	水 奈津美
初めて化学療法を受ける高齢がん患者の看護に関するニーズ	75	初めて化学療法を受ける高齢がん患者への看護を考える会	六上 朋美
計	7,013		

研修費部門

研修題名	配分額	研修組織の名称	研修責任者	研修実施者
	千円			
医療安全管理の質向上を目的とした“医療安全管理”に関する講習会および研修会への参加	126	医療安全管理室およびリスクマネージャー会議	廣瀬 昌博	平成24年度新リスクマネージャー
病院感染対策の質向上を目的とした“ICD( Infection Control Doctor )”および“ICP( Infection Control Practitioner )”資格取得のための講習会参加	204	感染対策室およびICT	廣瀬 昌博	ICT構成員コアディカルスタッフ
災害派遣医療チーム( D M A T )研修(厚生労働省)	207	災害対策ワーキンググループ	内尾 祐司	本学職員
小児心臓手術における術中術後管理の研修	448	小児心臓手術管理チーム	二階 哲朗	小児心臓手術管理チーム
小児心臓手術開始に備え、小児救急・集中治療についてのセミナー受講によるICU看護師教育の強化		看護部	渡部 光子	看護師
ロービジョン者の検査・サポートのための研修	260	ロービジョン者の検査・サポートのための研修	小村 哲郎	視能訓練士
「認定血液検査技師」試験の受験	100	検査部研修委員会	石原 智子	石原 智子
日本臨床微生物学会主催ICMT(感染制御認定臨床微生物検査技師)講習会受講	66	検査部研修委員会	柳楽 禎	柳楽 禎
「細胞検査士」資格更新のための学会および学会主催講演会参加	58	検査部研修委員会	足立 絵里加	足立 絵里加
「認定血液検査技師」更新の資格審査基準単位の取得	27	検査部研修委員会	勝部 瑞穂	勝部 瑞穂
認定心電検査技師制度 認定試験	166	検査部研修委員会	野津 泰子	野津 泰子 石飛 文規
認定一般検査技師取得試験	83	検査部研修委員会	馬庭 恭平	馬庭 恭平
核医学認定技師更新ポイント取得	97	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	山本 泰司
核医学専門技師受験資格のための単位取得 - 核医学画像セミナーへの参加 -	17	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	矢田 伸広
肺がんCT検診技師認定更新のための研修 日本CT検診学会 夏期セミナー2012(第16回読影セミナー・第11回肺気腫セミナー・第6回技術セミナー)の受講する	71	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	梶谷 尊郁
X線CT認定技師の取得のための研修	49	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	金山 秀和
Ai認定技師資格取得のための研修 平成24年度 第1回Ai認定講習会の受講	70	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	梶谷 尊郁
「第1種放射線取扱主任者」講習の受講(国家資格)	268	診療放射線技師のスキルアップ	小松 明夫	宮井 将宏 or 野津 勝利
認定輸血検査技師資格取得	170	輸血部	兒玉 るみ	兒玉 るみ
「学会認定・臨床輸血看護師」認定試験受験	472	輸血部	竹谷 健	今岡 久美 日高 経子
学会認定・自己血輸血看護師制度の受験				
第63回細胞検査士教育セミナーへの参加	129	病理部	長崎 雅幸	細胞検査士2名
福祉用具プランナー 資格取得の為の研修補助	150	リハビリテーション部	佐藤 千晃	佐藤 千晃
認定作業療法士および専門作業療法士 取得のための研修補助	319	リハビリテーション部	森脇 繁登	森脇 繁登
日本認知神経リハビリテーション学会主催「認知運動療法士」取得のための研修補助	126	リハビリテーション部	山崎 史穂	山崎 史穂
専門・認定理学療法士資格獲得	105	リハビリテーション部	伊藤 郁子	理学療法士
認定治験コーディネーター養成のための研修	81	治験管理センター、他3部門	川内 秀之	治験コーディネーター
体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加(日本人工臓器学会教育セミナー)	182	MEセンター	矢野 誠司	臨床工学技士
体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加(日本体外循環技術医学会教育セミナー2年次)	167	MEセンター	矢野 誠司	新井 篤史 明穂 一広 雨宮 秀幸 中田 早人
平成24年度精神科薬物療法認定薬剤師講習会	69	薬剤部	直良 浩司	今岡 広輔
がん専門薬剤師育成のための集中教育講座受講	174	薬剤部	玉木 宏樹	薬剤師
平成24年度日本緩和医療薬学会 教育セミナー	124	薬剤部	直良 浩司	土井 教雄 岡田 晴江
平成24年度感染制御専門薬剤師講習会	53	薬剤部	直良 浩司	石原 慎之
平成24年度 相談支援センター相談員基礎研修( ) ( ) ( )	147	地域医療連携センター	稲垣 文子	澤田 範子
院内がん登録実務初級修了者研修	116	院内がん登録委員会	鈴宮 淳司	浅田 祥子 今岡 妙子
院内がん登録実務 初級者研修	100	院内がん登録委員会	鈴宮 淳司	賣豆紀 裕子
日本医療社会福祉協会「第9期保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修」受講	154	医療サービス課	春日 みゆき	春日 みゆき
ソーシャルワークスキルアップ研修「インテグレイティブ・ショートターム・トリートメント(統合的短期型支援)」受講旅費	32	医療サービス課	廣兼 利江子	廣兼 利江子
「医療ソーシャルワーカー基幹研修」への研修参加	99	医療サービス課	榎原 貴子	榎原 貴子

ソーシャルワーク スキルアップ研修「退院支援ソーシャルワーク」研修参加	42	医療サービス課	小村 優介	小村 優介
2012年度フレッシュ医療ソーシャルワーカー1日研修会【大阪会場】	30	医療サービス課	中山 浩美	中山 浩美 新藤 舞
院内コーディネーター養成研修と普及啓発講演会	16	医療サービス課	米山 幸男	移植コーディネーター
第11回医療マネジメント学会島根支部学術集会 (地域連携クリティカルパスの運用による機能分担と連携強化を目的とした学術集会への参加)	100	医療サービス課	米山 幸男	本学職員
医師事務作業補助者養成研修	422	医療サービス課	米山 幸男	クラー5名
計	5,896			

## 「事前要望書」について記者発表を行いました

去る3月12日(月)鳥根大学医学部附属病院が従前より取り組んできた「事前要望書」の運用について、小林祥泰病院長(当時、現学長)、井川幹夫前副病院長(当時、現病院長)ならびに山口清次副病院長(当時)により、「事前要望書」のリーフレットの紹介とともにその対象をこれまでの「患者」から「一般市民」に拡大する旨の報道発表がなされました。「事前要望書」は、現在の医療では回復の見込みがなく、意思表示ができない状態になった場合に備え、患者や家族が望まない医療行為をあらかじめ医療者側に伝えておく仕組みです。翌13日の山陰中央新報、鳥根日日新聞や読売新聞の各紙とも、「医者任せの終末期医療から患者本人が選択する方向性を示したい」との小林病院長のコメントを載せ、肯定的に報じています。これまでの「事前要望書」の取組みで、終末期患者を中心に21人が本要望書を活用していますが、呼吸器内科では195人のうち176人が延命治療を拒否していることから、治る見込みがないなら延命治療は望まない患者が大半を占めています。そこには医療費などで家族に負担を掛けたくないと言う、患者の切実な思いも伝わってきます。

この報道発表のように「事前要望書」は徐々にでは



記者会見の様子

病院医学教育センター 廣瀬 昌博  
ありますが、がん患者を中心に活用されてきました。また、「事前要望書」について、関係各方面への周知を目的に平成22年、23年度に亘り、本院主催の市民フォーラムをビッグハートで開催しています。テーマを、それぞれ22年度「今を大切に生きる」、23年度「かけがえのない生命(いのち)・人生・家族そして医療」とし、京都大学こころの未来研究センター教授カール・ベッカー氏の基調講演とパネルディスカッションでその本意を伝えてきました。ベッカー氏は、「現在の日本人は、西洋から先進医療を輸入したが、昔から尊重されてきた死者への扱い、死に対する畏怖を忘れた結果が現在の医療環境であると指摘し、『事前要望書』は単に終末期医療の希望を伝えるのではなく、自分の生命(いのち)や家族のために、また、かけがえのない人生を全うするために人生設計することが大切であり、それをみんなで考える機会としてほしい」と訴えられています。これこそ、小林病院長の「事前要望書」の対象を「患者」から「一般市民」に拡大した理由であると考えています。

今後、本院のみなさまの「事前要望書」のより幅広い活用をお願いしたいと思います。



事前要望書のリーフレット

生命の輝きを支える医療

島根大学病院では「事前要望書」が利用できます

医療技術の進歩によって、かつては不治であった病でも治せる時代になりました。一方、その技術を生命にだけのために使ったり、**生命の尊厳**を傷つけられる結果になることもあります。**高齢社会**となった今、このような不安を感じられる方が多くなってきました。

島根大学病院では、患者さんが自分に対して行われる治療についてご自身の意思を伝えておく仕組みとして「事前要望書」を作りました。

「事前要望書」とは  
現在の医学では制限の見込みがなく、治療について自分の意思表明できないような状態になった時、自分としては決してない治療を支持しなくていいです。

(例)  
\* 自身の見込みが低いのに、人工呼吸器をつけてほしい  
\* 心臓を動かすための注射はしてほしくない  
\* 検査結果は詳しく知りたい

「事前要望書」は  
\* 有効なものである場合は、ご本人の自由意思です  
\* 記入される内容は、ご本人の自由意思です  
\* 途中で変更したり、取り下げることはいづれでも可能です

ご質問のある方は、下記までご連絡ください。  
島根大学医学部附属病院サービス課  
(553) 医療支援推進センターヘルプデスク  
(電話) 0852-861-2110

島根大学医学部附属病院

「他人まかせの医療」から「自分で選択する医療」へ

## 病院情報システムの更新について

医療情報部 花田 英輔

本年度は病院情報システムのリース契約の5年に一度の更新年度に当たります。病院情報システムはハードウェア、ソフトウェアに分かれ、ソフトウェアは患者情報データベース、医師・看護師等の記載システム(狭義の電子カルテ)、各種のオーダーシステム、各部門が独自に運用しているシステムとの接続部、一部の部門システムなどから構成されます。

今回、5月初旬の連休を利用してハードウェア(サーバコンピュータ及びパーソナルコンピュータ)と部門システムに関わる部分の大部分を更新しました。これにより、病棟および外来でご利用いただいている各端末のうち医療情報部が管理するパソコンはワイド画面でWindows7搭載の機種に変更され、再来受付機や自動収納機も新しいものになりました。ソフトウェアは医事

会計システム、放射線部のPACSや地域医療連携(紹介状作成)システム、診断書作成システム、部門独自システムとの接続部分等が更新されています。

今後、再開発工事の進捗に伴う移転時に行われる更新もあります。また患者データベースや電子カルテ、各種オーダー、看護に関するシステムは9月中旬の更新を目指して準備中です。既に各診療科への説明会を実施しておりますが、更新実施前には操作説明会の実施なども検討しております。

なお院内にはリース契約に基づかない端末も多くあります。また各部門が独自に購入したパソコンで病院情報システムが動作しているものがあります。これらは更新対象ではありませんので、その取り扱いについては検討中です。



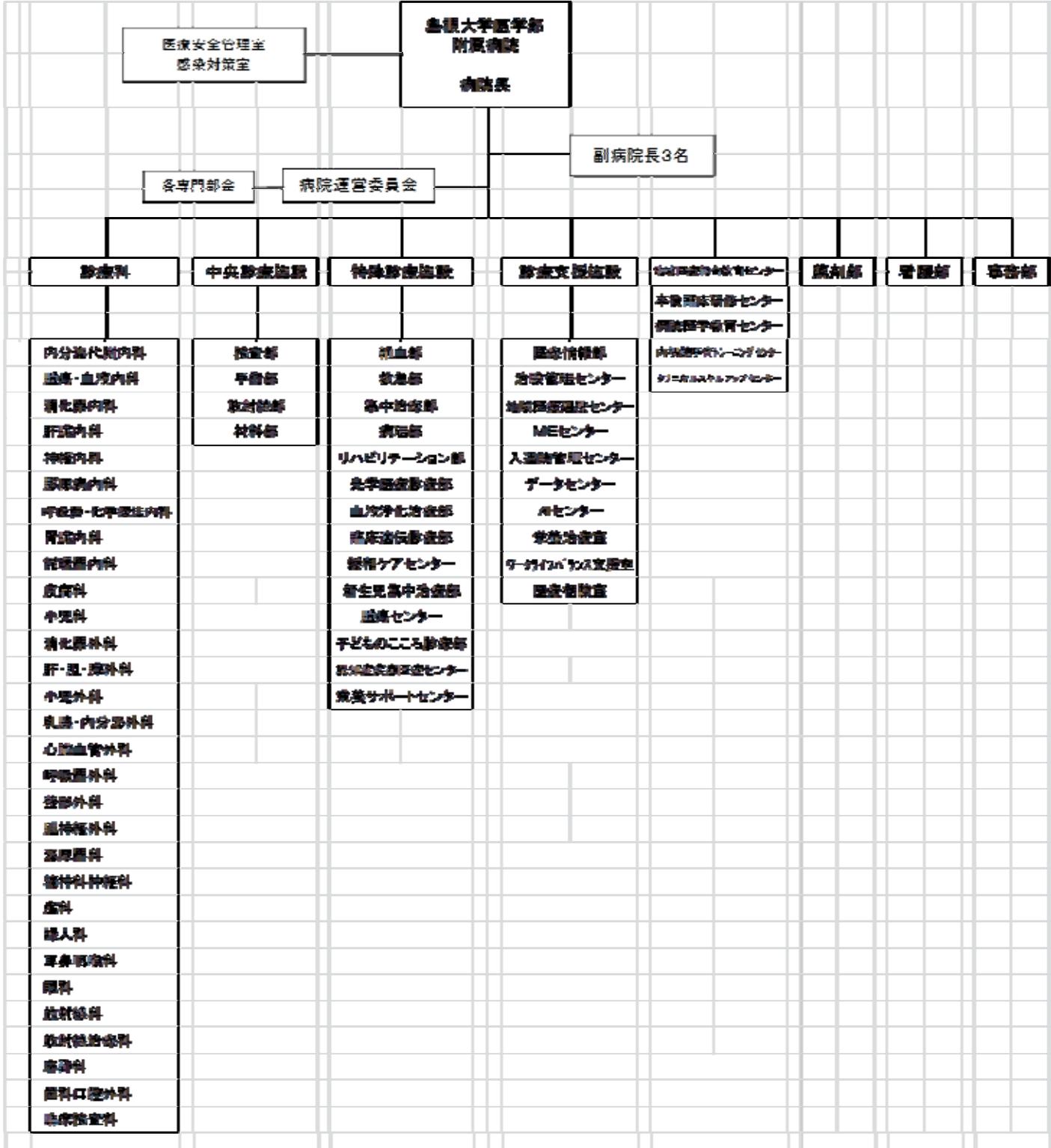
外来に設置された新しいワイド画面端末

# 病院組織変更(機構)について

総務課 総務担当

附属病院組織は、従来から中央診療施設、特殊診療施設及びこれ以外の施設に区分されていましたが、近年、各種センター等が多数設置され、附属病院組織に（新組織図）平成24年6月20日 最新版

おける位置づけや施設区分を整理する必要が生じたため、新たに診療支援施設の区分を設け、下記組織図のとおり新組織体制としました。



## 感染防止対策地域連携カンファレンスを開催しました

平成24年4月1日付の診療報酬改定では「地域連携」が一つのキーワードですが、あらたな潮流として、「感染防止対策加算」の新設があります。これまでの感染防止対策加算は“院内チーム”での取組みを評価した「医療安全対策加算」の一部でしたが、従来の加算は廃止、あらたな概念としての「感染防止対策加算」が新設され、その要件によって加算1、400点、および加算2、100点を入院初日に算定することが可能となりました。詳細については、医科点数表の解釈を参照してください。

感染防止対策加算における地域連携として、加算1算定病院は「年4回以上、感染防止対策加算2を算定する医療機関と合同の感染防止対策に関する取組を話し合うカンファレンスを開催していること、感染防止対策加算2を算定する医療機関から感染防止対策に関する相談を適宜受け付けること」です。同様に、加算2

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

算定病院は、「年に4回以上、感染防止対策加算1を算定する医療機関が開催する感染防止対策に関するカンファレンスに参加していること」が必要です。

そこで、加算1の算定病院である本院、加算2の算定病院として、出雲市立総合医療センター、大田市立病院、出雲徳洲会病院ならびに出雲市民病院が届出をすませ、去る6月12日（火）出雲市立総合医療センターにて、初の地域連携感染防止対策カンファレンスを行いました。カンファレンスの内容は、各医療機関における薬剤耐性菌等の検出状況、感染症患者の発生状況、院内感染対策の実施状況（アルコール製剤の使用量、感染経路別予防策の実施状況等）、抗菌薬の使用状況等について議論しましたが、それぞれの医療施設の現状もあり、今後、このカンファレンスを通じて参加病院における感染対策の充実を図ることで一致しました。



出雲市立総合医療センター・スタッフ



カンファレンスの様子

## 平成24年度第1・2回環境マネジメントシステム(EMS)研修会を実施

出雲キャンパスの環境に配慮した活動について、附属病院を有するキャンパスでは全国で初めてISO14001の認証を取得し、昨年10月に登録更新を受け、皆様の協力を得ながら継続的な改善を実施しているところです。

5月16日（水）、23日（水）に臨床講義棟2階大講堂において、第1回、第2回環境マネジメント基本教育研修会を実施しました。

第1回は医学部附属病院EMS対応委員会委員長 小林裕太教授及び実験系作業部会責任者 山崎雅之講師が、第

施設企画課 内田 聡

2回は医学部EMS対応委員会委員長 藤田委由教授、実験系作業部会責任者 山崎雅之講師及び診療系作業部会責任者廣瀬昌弘センター長が講師として出雲キャンパスEMSの概要、昨年度の活動報告及び課題、本年度の目的・目標及び実施計画等について説明を行いました。

研修会は、教職員、学生及び常駐事業者を対象に実施し、2日間合わせて831名の参加がありました。

なお、業務の都合等で参加できなかった教職員には、研修後にWeb上に研修会資料を掲載し、アンケートシステムにより周知を行いました。



第1回研修会



第2回研修会

## 「しまねの看護師就職キャンペーン合同セミナー」に参加して

5月3日「しまねの看護師就職キャンペーン合同セミナー」が、ラピタウェディングパレスで開催されました。島根県内22の病院が一同に会して、それぞれの病院の特色や採用情報をアピールしました。ガイダンスは各ブース1回15名までとして30分間ごとに7回チェンジして行われました。このセミナーには県内の看護学校や県内出身の県外看護学校の学生を中心に約170名の参加があり、当院ブースにも約90名が訪れました。当院は看護管理室や総務課からの説明の後、Q&A方式で今年就職した1年目から3年目までの看護師が来場者の質問に丁寧に対応しました。身近な先輩から話が聞けることは、参加者に好評でした。

### 看護部 秦 美恵子

平成20年度から始まった病院再開発も、いよいよ今年度が最終年度となり、来年4月には600床がフルオープンします。インターンシップ・病院見学会・就職ガイダンス・学校訪問等を通して、私たちの病院を知っていただき、一緒に働く仲間となって貰いたいと切に願っています。今年は、夏休み期間中の7月8月9日にはインターンシップや病院見学会等も複数回計画していますので、たくさんの方にご参加いただきたいと思います。

詳細は島根大学病院看護部のHPをご覧ください。

(ホームページアドレス:<http://otart-test.sakura.ne.jp/kangobu/>)



来場者からの質問に当院看護師が対応中



当院からの参加メンバー

## ナース輝いて！ 新人看護師からのメッセージ

看護部 山崎 美和

島根大学病院に入職して2ヶ月が経ちました。まだまだ先輩方の指導を受けながら仕事についていくだけで精一杯の日々が続いています。初めての社会人としての生活・助産師としての生活がめまぐるしく、あっという間に過ぎていきました。

夢であった助産師として妊産褥婦さん・新生児と触れ合いながら仕事ができることに幸せを感じつつ日々勉強させていただいています。まだ2ヶ月しか経っておらず一人前に仕事を任せただけの技量は持っていませんが、チームの一員として自分ができる仕事を精一杯させていただこうと思っています。知識も・技術も未熟ですが、笑顔を忘れずに、そして分からないこと・心配なことは先輩に質問し新人のうちしか質問できないことも多々あると思うので、色々なことを吸収しながら仕事ができたらいいなと思っています。

1年後、今よりも一回り大きく成長して笑顔とともに仕事を頑張り続けたいなと思います。



看護部 石飛ひかる

今年4月より、病棟で看護師として働かせて頂いています。私は、幼いころ入院や通院治療をしてきた経験があります。思いやりのある医療に支えられて、辛かった治療も乗り切ることができ、夢であった看護師にもなれました。看護師として働けることに喜びを感じています。喜びを感じていると同時に、日々、看護師の仕事の難しさ、責任の大きさを感じ、自分の力不足を痛感しています。落ち込むこともあります。指導して下さる先輩方、同期の仲間、患者様からの暖かい言葉、笑顔から、勇気や頑張ろうという気持ちを頂いています。頂いた気持ちを常に胸に抱き、今度は私が患者様の側でお役に立ちたいと思います。

病棟では、覚えることが多く、業務に追われてしまいがちですが、患者様との日々、一緒に働く方々と接する時間を大切にしていきたいです。人と人との関わりの中で多くのことを学び、思いやりのある看護が実践できるように努力していきたいと思っています。



## 炊き出し訓練の実施について

4月19日昼食時に院内炊き出し訓練として、お握り（わかめとゴマ塩）2個と豚汁を屋外で炊き出し、島大農場トマトジュースと共に階段を使って患者さんに配膳しました。昨年3月11日14時46分東日本大震災を教訓に2回目の実施です。前は雑誌などで取り上げられ県

栄養治療室 川口 美喜子

内外の多くの施設から問い合わせや同様に実施したという連絡を受け関心の高さが伺われました。今回、参加者は多部門、多職種が集まり、新病棟9階までも階段を使用して時間内に配膳することが出来ました。患者さんからは、「このような取り組みがされていること

で入院していても震災時の食事は安心できます。食事  
も美味しかったです。」と感想をいただきました。

栄養治療室が伝えたかったことは、院内スタッフの  
誰もが災害時危機管理のモチベーションを持ち続ける  
こと、災害時には患者だけでなくスタッフが動き続け  
るためにもエネルギーの補給が必ず必要であり、職員  
の食事や帰宅困難者の食事は、栄養治療室が中心に  
守っているということです。そして今年、災害の教訓  
を生かして災害と共に生きる方策を模索し、スタッ  
フ全員がその手段の一つとして身近に非常食袋を常備  
することを目指すことにしました。栄養治療室のスタッ  
フ54名は全員がロッカーに常備しています。袋には  
「冷静・分かち合う心」と表記し、その展示も行いま  
した。スタッフ全員が備蓄されるようにこれからも  
運動します。みなさんの身近に安心感のある生活を実

現する第一歩として備えて下さい。



屋外でお握りを作るスタッフ



病院栄養士、委託業者全員が袋の中身は自己管理



非常食袋「冷静・分かち合う心」を常備

## 平成24年度医学部防災訓練を実施しました

平成24年5月18日（金）15時から、職員46名が参加し  
て、平成24年度医学部防災訓練を実施しました。

訓練は、浜田市沖を震源とする震度6の地震が発生  
し、建物の一部に亀裂、窓ガラスの破損、軽症者が発  
生、また、エレベーター内に閉じ込められた職員もあ  
るとの想定で行いました。

この訓練は、平成19年度の消防法改正に伴い義務付  
けられたもので、本学では21年度から継続して訓練を  
行っております。

“自衛消防隊本部に集まってくる情報を如何に整理  
し、隊長及び班長等は班員にどのように指示すべきな  
のか”を検証しながらの訓練となりました。

地震は広範囲に発生する災害のため、本学単独での  
訓練ではその成果は限定的となります。今後は、関係

施設企画課 長妻 佳伸

団体と連携した、より実践的な訓練が行われるよう改  
善してゆく必要性を感じています。



情報を整理・検討する本部隊



被災状況を調査する附属病院地区隊員



仮想患者(熱傷)を処置する応急救護班員

## 災害派遣医療チーム(DMAT)隊員を募集しています

本院では、大規模災害発生時の災害派遣医療チームの派遣に備え、医師2名、看護師2名、業務調整員（薬剤師等医療職員及び事務職員）1名の合計5名をチームとして選抜し、厚生労働省が兵庫県災害医療センターで実施する災害派遣医療チーム（DMAT）研修に参加しています。

現在、職員の異動等により、DMAT研修を受講した登録隊員は、医師2名、看護師4名、調整員（薬剤師）2名の合計8名です。大規模災害発生時には、島根県知事の要請により緊急出動し48時間の救護活動を行わなければならない、隊員が不足しているのが現状です。

つきましては、DMAT隊員を募集いたしますので、是非ご協力をお願いいたします。

今回募集するのは、業務調整員（診療放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等医療技術職員、事務職員及び技術職員）の方で、災害発生時の主な業務は、災害現場での患者の受入れ・調整・搬送、通信確保と衛星電話（本学所有）の操作、PCでの広域災害救急医療情報システム（EMIS）による被害状況、受入れ状況等の入力です。

### 総務課 総務担当

登録隊員は、この他に年間の訓練として9月の出雲市消防訓練、10月の出雲空港航空機消火救難訓練、11月の中国地区DMAT実働訓練等があります。

ご協力いただける方は、所属長の了解を得たうえ、総務課総務係妹尾までご連絡願います。

（メールアドレス：senooyu@jn.shimane-u.ac.jp 内線：2015）

DMAT（災害派遣医療チーム）：医師、看護師、業務調整員（医療職員及び事務職員）で構成され、大地震及び航空機・列車事故といった災害の急性期（概ね48時間以内）に都道府県、厚生労働省からの要請により被災地に迅速に駆けつけ、トリアージ（負傷者を重症度、緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決めること）、緊急医療、がれきの下の医療等救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。

DMAT研修会：国立病院機構災害医療センター（東日本会場（立川市））又は兵庫県災害医療センター（西日本会場（神戸市））において、講義・実技訓練（4日間）を行い、研修修了後日本DMATから隊員証が交付されます。



本院DMAT(出雲空港にて)



米子市で開催された中国地区DMAT実働訓練

## オーケジョナル・オーケストラ DNAフィルハーモニック結成のご案内

30期卒業生の中村康平と申します。現在島根大学医学部附属病院にて初期研修医2年目として勤務しています。

このたび、島根県に縁のある医療従事者を対象にした「オーケジョナル・オーケストラ DNAフィルハーモニック」を結成いたしました。名称のDNAはDoctor、Nurse、Artistのそれぞれの頭文字をつなげたものです。日頃、医療の現場で働きながら、音楽を続けている人が主体となり、アートの世界で働く人たちともコラボレーションをして、一つの演奏会を成し遂げたい！という思いで立ち上げたアマチュア・オーケストラです。シュールカメラト管弦楽団の卒業生も多く所属し、また県外の大学出身で、現在島根県内で医療に関わる方も多く在籍しており、計50名強で活動しています。月に一回、島根大学の学生会館にて本番に向けて練習を重ねています。島根医科大学4期生で、東京で外科医として働いている林朋之氏をソリストとして迎えてのラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第2番、そして長年、島根大学シュールカメラト管弦楽団の常任指揮者でいらっしゃった喜久里誼氏の指揮のもとにドヴォルジャーク作曲交響曲第8番、この2曲を演奏いたします。医療の現場と音楽の現場をつなぐもの、それは「心」そして「いのち」だと思います。心熱く、そして、いのち燃える音楽を皆様にお届けできるよう

卒後臨床研修センター 中村 康平

に、楽団員総力を挙げて演奏させていただきたいと思っております。

より多くの皆様に、記念すべき第一回演奏会にお越しいただきますよう、宜しく願い申し上げます。

日時：11月24日（土） 開場：13時30分

開演：14時

場所：出雲市民会館 大ホール

曲目：ラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第2番

（指揮：長坂行博氏、ソリスト：林朋之氏）

ドヴォルジャーク作曲交響曲第8番

（指揮：喜久里誼氏）



## 日本医療福祉設備学会優秀発表賞を受賞

医療情報部の花田准教授が、清水建設(株)情報ソリューション事業部との共同研究により開発した「アクティブタグを活用した医療機器運用管理システム」について昨年11月に東京で行われた日本医療福祉設備学会で発表したところ、一般演題優秀発表賞を受賞しました。この賞は全ての一般講演中1演題にのみ与えられる賞であります。表彰式は去る5月25日に東京で行われ、賞状が授与されました。

開発したシステムは電池を内蔵するICタグ(アクティブタグ)を輸液ポンプや人工呼吸器などの医療機器の電源部付近に取り付けて情報マネージャとの間で無線通信を行うことで、タグの位置だけでなく機器自体の電源ON/OFFなどの情報を集約して知ることができる仕組みを持っています。

開発は産学連携で行われ、MEセンターの協力を得て、産学連携センター地域医学共同研究部門建物内及び開院直前のC病棟において機能を確認する実験を行い、成果につなげました。

医療情報部 花田 英輔

共同研究の成果に対し今後さらに改良を加え、最終的には商品化を目指すこととしています。



## 学生、大学院生、医員、助教等の教育表彰

3月23日医学部長室において、「ベストチューター賞」、「ベスト教育研修医賞」、「研修医の選ぶベスト指導医賞」、「ベスト看護教育賞」の表彰が行われました。

ベストチューター賞は、チュートリアル教育におけるチューターとして学生の教育効果の向上に大きく貢献した者を表彰するもので、チューターとして参加した学生、大学院生、医員、助教を対象として、チュートリアル教育での学生のチューター評価表を基に集計したスコアが高い3名が選ばれます。

ベスト指導医賞は、卒後臨床研修における指導医として研修医の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、研修医を直接指導している大学院生、医員、助教を対象として、卒後2年内の研修医の投票により3名が選ばれます。

ベスト教育研修医賞は、臨床実習における教育研修医として学生の指導に大きく貢献した者を表彰するもので、臨床配属実習の指導をしている研修医を対象として、実習を行った学生の投票により3名が選ばれます。

ベスト看護教育賞は、本学医学部附属病院臨地実習における学生の指導に大きく貢献した病棟等を表彰するもので、看護教育を担当する病棟等が選ばれます。

平成23年度は次の方々を受賞されました。山口拓也助教、神原瑞樹研修医は、昨年に引き続いての受賞です。

総務課 人事担当

「ベストチューター賞」

松本 暁洋（発生生物学 助教）

岡崎 恭子（内分泌代謝内科 医員）

明保 洋之（医学科6年）

「ベスト教育研修医賞」

中西 宣太

神原 瑞樹

高見 咲

「研修医の選ぶベスト指導医賞」

花田 健（腎臓内科 助教）

山口 拓也（神経内科 助教）

野津 雅和（内分泌代謝内科 医員）

「ベスト看護教育賞」

A病棟 7階

A病棟 4階



受賞された皆さん

## 難病の子どもたちを励ます花火を打ち上げました

5月5日夜8時から、神戸川の河原で55発の花火が打ち上げられました。出雲市の花火師の多々納恒宏さんが、大学病院に入院中の子どもたちを励まそうと小児病棟から見えるように花火を打ち上げてくださいました。2007年から始まって今年は7回目になりますが、C病棟6階の小児センター病棟（ミッフィー病棟）からみるのは初めてです。新しい病棟からみる花火はすてきでした。本格的な花火は、おもちゃの花火とちがって安くないと思いますが、年1回のこのイベントのために、多々納さんの仲間たちがふだんからカンパしてくださっているそうです。ありがとうございます。

小児科 山口清次 看護部 山本宗子



## 床頭台等清掃終了後の表示を開始しました

附属病院再開発事業に伴い、平成23年6月にC病棟が開院し、各ベッドサイドの床頭台は、テレビ視聴に加え食品が保存できる冷蔵庫を備えたものに一新されました。

入院患者さんやそのご家族に床頭台や病室内の各種設備を安心してご利用いただけるよう、退院時には



会計課 福間 彰

ベッドメイキングに加え床頭台及び周辺設備（ワードローブ、オーバーテーブル等）の清拭・消毒等を併せて行っています。

また、本年4月から作業後には「月/日清掃・消毒済み」の短冊を掲示し、より快適な療養に寄与できるよう取り組みを開始しました。



## ユニフォームコレクション



妊娠8カ月の方が着用しています。

### マタニティ白衣

平成23年にワークライフバランス支援室が開発したマタニティ白衣（コートタイプ）です。腹囲の変化にあわせてウエストの調節ができ、妊娠初期から臨月まで対応可能です。平成24年4月から出雲キャンパスの職員・学生であれば職種や雇用形態にかかわらず誰でも利用できるレンタル制度を開始しました。現在、2名の職員の方が利用中です。ご利用希望、お問い合わせはワークライフバランス支援室（内線2534）まで。

小児科のユニフォームは「子どもにやさしい」をコンセプトに、ポロシャツとスクラブ（術衣）の2パターンを作成しました。

特徴は温かみのある色合い（ピンク、ワインレッド）と、左胸にあるウサギのワンポイントです。白衣よりも恐怖感がないようで、子ども達への評判も上々です。



近年、医療ドラマ、ドキュメント番組などメディアを通じて、医療を身近に感じつつあります。とくにドラマでの衣装は一つのファッションとなっており、最近ではネイビーブルーを基調としたユニフォームが普及しているようです。この代表的なドラマがコードブルーであり、これを皮切りに全国の各病院でこのユニフォームを着たいと熱望する医師（とくに若い世代）が増加し、着々と医師のスタイルというのも変わりつつあるようにみえます。ここで、この時代の流れののっていくという意味や、見た目をかえて、自分の内面にも磨きをかけるということを目指して新規にユニフォームを作成したいと考え、2010年夏より当科でも新規ユニフォームを導入しました。

私の経験では、前任地(松江赤十字病院)ですでにこの波に乗って一人でスタートした企画でしたが、周りからの評判も上々で、研修医の先生にも広まった経緯があります。

具体的には新しいユニフォームは、100%化繊でアイロンいらず、反復する洗濯に対しても耐久性を有し、その形状を維持できることからスタイリッシュさも兼ね備えています。

バックプリントを搭載することで、当科のアピールにもつながり、ひいては、今後若い世代の研修医の先生達にもスタイリッシュな医者になりたいという希望をかなえてあげることができるのではないかとひそかにもくろんでいます。

ちなみに、当科の業務内容はおもに内視鏡や腹部超音波など検査が主体となり機敏なフットワークが要求

されます。そのフットワークをささえているのもひとつはこのユニフォームです。ブルーのほかにも女性の先生向けにあずき色のものもあり、最近ではニューカラーとしてブラックも導入しました。しかしながらこれを着ると、若干忍者風になるため、さほど評判がよろしくありません。私自身、ブルーとブラックの両方を愛用していますが、やはりブルーのほうがこのみです。あと、最近わかったことですが、院内でクリーニングに出し続けるとバックプリントの文字がはがれるといった脆弱性が発覚しました。これについては、頻繁に洗濯している方に多くみうけられることがわかりました。対応策を練らねばなりません・・・

ユニフォームに関する質問、お問い合わせなどは相見までよろしくお願いいたします。



「このユニフォームは、材料部からMEセンターへ部門変更した際に採用されました。着替えやすく、機能的、しかもジャニーズのY下くんや、松嶋N子さんのように素敵に見える(はず)?とスタッフ全員で決定しました。もし、院内で見かけたら気兼ねなく声をかけてくださいね。」



皆様、お疲れ様です。腎臓内科です。  
 この度このコーナーを頂き、当科のユニフォームについて見直してみました。  
 そもそも、昨年始めまでは当科にこれといったユニフォームは存在しませんでした。一人が火付け役となり、一人、また一人と別々のスクラブ購入者が増えていったため、最終的に科として揃いのユニフォームを作ることになったというのが、当科ユニフォーム誕生のいきさつです。そして、新入局者には入局宣言時に当ユニフォームを贈ることがならわしとなりつつあります。  
 腎臓内科は、データとにらめっこしていると思われがちかもしれませんが、腎生検や透析・アフェレーシスなどの際には、この動きやすいユニフォームが大変便利です。  
 私たちとともにこのユニフォームを着てくださる方々を心よりお待ち申し上げます。



「手術室のユニフォームです。  
 現在6種類ありますが、個人の好みに自由に着用しています。  
 そして、多職種でコミュニケーションを大切にしてい、チームワーク良く働いています。」

診療放射線技師のユニホームは、放射線を扱うので、男性は胸にルクセルバッチをつけて、白いケーシーにベージュのズボンをはいています。  
 女性は腹部にルクセルバッチをつけて、白いケーシーに黒いズボンをはいています。  
 部署によって頸部にもルクセルバッチをつけています。  
 基本はこのスタイルなのですが、枚数の都合などで違う種類のケーシーやズボンを着用していることもあります。



リハビリテーション部スタッフのユニフォーム  
 現在は上が白のケーシー服、下が紺のスラックスと極めて普通のスタイルですが、32年前の理学療法部開設当初は、下は今と同じですが、上は動き易さを優先して夏季が半袖のポロシャツ、それ以外はトレーナーでした。しかしポケットが使えない不便さが問題になり、今のスタイルに落ち着きました。

他の施設では、PT・OT・STでデザインが異なっていたり、ケーシー以外の服だったり「おしゃれ」な感覚を取り入れている所もあります。今後は動きやすさ等の機能と見た目の良さを考慮したものへの変更も検討したいと思っています。



## ボランティア活動について

### ボランティアコンサート

医療サービス課 患者サービス室



4月25日 クラリネット演奏会



5月7日 ソプラノデュオコンサート



5月25日 「K-ON Acoustic Concert」



6月15日 西脇屋 善べえさんの紙芝居口演会



6月19日 「フローラ室内楽団演奏会」

## 病院運営委員会の報告

平成24年4月18日

診療科長を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
血液内科	診療科長	--	田中 順子	平成 24 年 5 月 1 日
腫瘍・血液内科	診療科長	鈴宮 淳司	--	平成 24 年 5 月 1 日

副診療科長を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
血液内科	副診療科長	—	高橋 勉	平成 24 年 5 月 1 日
腫瘍・血液内科	副診療科長	田中 順子	—	平成 24 年 5 月 1 日

病棟医長等の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
内分泌代謝内科	病棟医長	金沢 一平	山本 昌弘	平成 24 年 4 月 1 日
	外来医長	山本 昌弘	矢野 彰三	平成 24 年 4 月 1 日

平成24年5月16日

特殊診療施設の部長を承認しました。

施設名	所属・職	氏名	任期
光学医療診療部	光学医療診療部・准教授	佐藤 秀一	平 24.4.1 ~ 平 25.3.31

診療科長を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
泌尿器科	診療科長	椎名 浩昭	井川 幹夫	平成 24 年 4 月 1 日
放射線治療科	診療科長	猪俣 泰典	内田 伸恵	平成 24 年 4 月 1 日

副診療科長を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
消化器外科	副診療科長	山本 徹	三成 善光	平成 24 年 5 月 1 日
乳線・内分泌外科	副診療科長	三成 善光	--	平成 24 年 5 月 1 日
泌尿器科	副診療科長	安本 博晃	椎名 浩昭	平成 24 年 4 月 1 日

病棟医長等の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
呼吸器・化学療法内科	外来医療	本田 健	神田 響	平成 24 年 4 月 1 日
放射線治療科	病棟医長	玉置 幸久	横川 正樹	平成 24 年 4 月 1 日

平成24年6月20日

特殊診療施設のセンター長を承認しました。

施設名	所属・職	氏名	任期
栄養サポートセンター	臨床検査医学講座・准教授	矢野 彰三	平 24.6.20 ~ 平 25.3.31

特殊診療施設の副センター長を承認しました。

施設名	所属・職	氏名	任期
栄養サポートセンター	乳線・内分泌外科・講師	板倉正幸	平 24.6.20 ~ 平 25.3.31

病棟医長等の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
精神科神経科	外来医長	古屋 智英	和氣 玲	平成 24 年 7 月 1 日

## 研修会・講演会・学会等のお知らせ

種別	日程	取組	対象者	趣意書	講師等	主催者
医師会との連携強化に向けた研修会	平成 24 年 7 月 4 日(木) 17:00~18:00	医師会連携 2 階 臨床大学院	院内職員	"医師会との連携強化に向けた研修会"について	本学会 佐藤 博之(副委員長) 安全看護部長 長谷 豊	医師会安全管理委員会
平成 24 年度院内研修会 臨床入門講座 - 患者の権利の理解 -	平成 24 年 7 月 7 日(土) 14:00~16:00 平成 24 年 7 月 14 日(土) 14:00~16:00 平成 24 年 7 月 21 日(土) 14:00~16:00 平成 24 年 7 月 28 日(土) 14:00~16:00	臨床研修 2F 看護教室	一般市民	7 月 7 日 高齢者に多い認知症と痴呆性精神病 7 月 14 日 認知症の予防、発症ってどんなもの? 7 月 21 日 ワクチンによる感染症対策の最新 7 月 28 日 インフルエンザの予防対策	講師 池田 裕三(安全看護部長) 佐野 千景(安全看護部長) 赤井 豊(看護部・安全看護部長) 金野 浩一(看護部・安全看護部長)	看護部・看護協会
平成 24 年度人事研修会 ナビ	平成 24 年 7 月 8 日(月) 12:00~14:00	研修室 201 階	高松市内の臨床 看護職員	九州-徳島研修会プログラムの展開 会場	佐藤 博之(副委員長)	人事課
院内研修 認知症講座	平成 24 年 7 月 10 日(水) 17:30~19:30	看護学第 4 階 第 2 研修室	院内・研修室・単 身・看護部・学生 法曹・他職種・実 習生	会場 認知症と認知症の予防	講師 山本 浩一(副委員長)	カリニクススキルアップセンター職員
平成 24 年度第 1 回 臨床安全のための研修会	平成 24 年 7 月 12 日(金) 17:30~18:00	医師会連携 2 階 臨床大学院	院内職員	臨床安全のための取組	本二方 芳彦 本七 孝之 臨床安全 対策委員会 委員 堀 一郎	医師会安全管理委員会
平成 24 年度第 2 回院内 研修会 認知症講座	平成 24 年 7 月 20 日(土) 10:30~12:00	ナビ (第 2 階 201 室)	一般市民	認知症と痴呆性精神病 認知症の予防	講師 池田 裕三(副委員長) 佐野 千景(副委員長)	院内研修
徳島大学がん臨床研修 会研修会	平成 24 年 7 月 26 日(水) 10:00~16:00	看護学第 4 階 101 研修室	がん診療に関わ る医療従事者	がん診療とがんの予防	講師 山本 浩一(副委員長)	徳島大学がん臨床研修会
徳島大学がん臨床研修 会研修会	平成 24 年 8 月 24 日(金) 10:00~16:00	医師会連携 2 階 臨床大学院	がん診療に関わ る医療従事者	がん診療とがんの予防	講師 山本 浩一(副委員長)	徳島大学がん臨床研修会
院内研修 認知症ハビ リテーション研修会	平成 24 年 8 月 27 日(土) 17:00~18:00	医師会連携 2 階 臨床大学院		認知症と痴呆性精神病 認知症の予防	講師 山本 浩一(副委員長)	リハビリテーション課
徳島大学がん臨床研修 会研修会	平成 24 年 8 月 31 日(金) 10:00~16:00	看護学第 4 階 101 研修室	がん診療に関わ る医療従事者	がん診療とがんの予防	講師 山本 浩一(副委員長)	徳島大学がん臨床研修会
院内研修	平成 24 年 9 月 8 日(土)	竹野直史館(臨 床大学院)		"徳島と徳島県立徳島大学 FD" 会場	講師 山本 浩一(副委員長)	院内研修
市民公開講座	平成 24 年 9 月 8 日(土) 14:00~16:00	看護学第 4 階 101 研修室	一般市民	"子どもたちの心の健康と療育の心" 会場	講師 山本 浩一(副委員長)	精神科看護部
平成 24 年度第 3 回院内 研修会 認知症講座	平成 24 年 9 月 10 日(月) 16:30~18:00	ナビ (第 2 階 201 室)	一般市民	認知症と痴呆性精神病 認知症の予防	講師 山本 浩一(副委員長)	院内研修

### 編集委員会からのお願い

病院ニュースは年 4 回発行予定です。  
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてもらいたいニュース、PR、  
わが家のペットなどを編集委員会へお寄せください。

担当

医療サービス課 医療支援室(内線 2068)

Email: しろうさぎ専用アドレスです。 [shirousag@med.shimane-u.ac.jp](mailto:shirousag@med.shimane-u.ac.jp)

(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)

働く、輝く、出雲で暮らす。



島根大学医学部附属病院

平成23年6月新病棟完成!

平成25年4月フルオープン!

既存病棟・外来棟全面改修



# 看護師・助産師 大募集!

皆様のご応募お待ちしております。  
\*病院見学、随時受付中!(土日・祝日の見学も可能)

新規採用・中途採用、随時受付中!

## インターンシップのご案内

- 平成24年7月  
7月 5日(木)~7月 6日(金)  
7月10日(火)~7月11日(水)
- 平成24年8月  
8月 8日(水)~8月 9日(木)  
8月28日(火)~8月29日(水)
- 平成24年9月  
9月 6日(木)~9月 7日(金)

応募方法等詳しくは下記HPで!

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

島根大学病院

お問い合わせ先/医学部総務課人事担当

TEL.0853-20-2021

地域医療と先進医療が調和する大学病院

国立大学法人  
島根大学 医学部附属病院